

2025年 図書館総合展ウェビナー (オンライン開催)

史料集は誰がどのようにつくっているのか — 東京大学史料編纂所の舞台裏 —

11月 21日 (金) 15:00~16:00

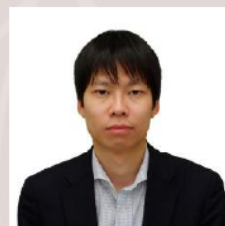
主催：紀伊國屋書店、協力：ネットアドバンス、東京堂出版

登壇者

堀川 康史 氏

(東京大学 大学院情報学環・学際情報学府 准教授
同 史料編纂所 准教授)

1987年神奈川県生まれ。東京大学大学院人文社会系研究科博士課程単位取得退学。博士（文学）。専門は日本中世史（室町幕府地方支配と南北朝内乱の研究）。



プログラム

- ・史料集とは
- ・史料編纂所はどのような仕事をしているのか
- ・史料編纂所の舞台裏
- ・史料集とデータベース（遺文シリーズ）



申込み

<https://forms.office.com/r/CJT3yfEfXQ>

上記URL/左記のQRコードからお申し込みください。



イベント開催にあたって

東京大学史料編纂所は、日本史に関する史料の研究と、史料集の編纂・出版を行う研究所です。国内外に残る古代から明治維新时期までの各種史料を収集・蓄積して研究し、その内容を『大日本史料』『大日本古文書』『大日本古記録』『大日本近世史料』『大日本維新史料』『日本関係海外史料』『花押かがみ』『荘園絵図聚影』などの基幹史料集や、多様な各種データベースにより学界および社会にひろく公開し、貢献することを使命としてきました（東京大学史料編纂所HP 所長挨拶より引用）。

東京堂出版が刊行する『遺文シリーズ』は、現存する古文書を集め、文書名・所蔵者名・出典等を記し、時代ごとに編年でまとめた史料集で、『寧楽（なら）遺文』『平安遺文』『鎌倉遺文』『南北朝遺文』『室町遺文』『戦国遺文』が書籍として刊行されています（『室町遺文』と『戦国遺文』は継続刊行中）。古代・中世の政治、社会、文化等を研究する上での、第一級の史料集であり、流行りことばや方言など、中世日本語史・語彙の研究等にも活用されています。

『遺文シリーズ』の全文検索と書籍版面データのWeb上での参照を可能にし、大幅に利便性を向上させるプロジェクトは、第一弾の『Web版 鎌倉遺文』（2018～2019年）を皮切りに、第二弾の『Web版 平安遺文』（2023年）と続き、今年2025年6月に第三弾の『Web版 南北朝遺文』をリリースすることができました。

『Web版 南北朝遺文』リリースを記念して、『Web版 遺文シリーズ』の編集にご協力いただいている東京大学史料編纂所の堀川先生をお招きし、「史料集は誰がどのようにつくっているのか」を主題にしながら、図書館や研究・教育現場での活用方法について、史料集の編纂とデータベース構築の両方に携わる研究者の実践報告をご紹介します。図書館ご担当者様をはじめ、学生、研究者の皆さまのご参加を心よりお待ちしております。

JKBooks（ジャパナレッジ）Web版 遺文シリーズ

遺文シリーズは、日本史研究に欠かせない一大史料集です。Web版（ジャパナレッジ版）は全文検索ができる他、書籍の版面を画面上で確認することもできます。東京大学史料編纂所のデータベース『日本古文書ユニオンカタログ』と連携しているため、登録されている刊本・写本・史料画像などの情報まで参照することも可能です。

Web版は、現在以下が刊行中

平安遺文…平安時代の古文書5,527通を網羅。

鎌倉遺文…鎌倉時代の古文書36,118通を網羅。

New

南北朝遺文…南北朝時代の古文書20,332通を網羅。



お問い合わせ先